

(様式 12)

氏名(本籍) 仲筋 宣子(東京都)  
学位の種類 博士(歯学)  
学位記番号 甲 第318号  
学位授与日 2016年3月14日  
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第1項該当者)  
学位論文題目 思春期の顎関節症状の自覚と「あごの健康診断チャート」を使用した要因推定

論文審査委員 (主査)教授 安井 利一  
(副査)教授 藤澤 政紀  
(副査)教授 渡部 茂  
(副査)教授 長谷川 彰彦

### 論文内容の要旨

本研究は具体的な保健指導に結びつけるため、「あごの健康診断チャート」を使用し、顎関節の自覚症状に関与していると考えられる要因を推定することが目的である。調査期間は平成20年度から平成26年度、対象はストレスが大きくなり自覚症状が現れやすいことを考慮し思春期にある埼玉県下の公立中学校3年生とした。分析対象者は、391名(男子208名、女子183名)であった。顎関節の自覚症状の有無でグループ分けし、う蝕・咬合異常、生活習慣、ストレスの各要因、および要因数、体と心の状態をVASとして検討を行った。その結果、顎関節の自覚症状を有する生徒は生活習慣の要因が有意に多かった( $p<0.05$ )、また自覚症状の有無を要因数が1以下と2以上で比較したところ自覚症状を有する生徒は2以上で有意( $p<0.05$ )に多かった。体と心の状態のVASポイントは、相関検定で有意性を認めた。自覚症状の有無でVASポイントの平均を比較すると、自覚症状を有する生徒の体の平均VASポイントは有意に低くなった( $p<0.05$ )。中学3年生の顎関節の自覚症状は生活習慣との関連性が考えられ、顎関節症の発生要因と考えられる要因数にも影響を受け、自覚症状を有している生徒は体と心のバランスが崩れている可能性も推察された。

### 論文審査および試験結果の要旨

本論文は、平成20年度から平成26年度思春期にある埼玉県下の公立中学校3年生を対象として「あごの健康診断チャート」を使用し、顎関節の自覚症状に関与していると考えられる要因を推定、検討を行ったものである。研究の結果、自覚症状には生活習慣が関与している可能性、自覚症状を有している生徒は要因が2つ以上の可能性、自覚症状を有している生徒では、心と体のバランスが崩れている可能性が明らかとなった。本論文の成果は、学校での保健指導や保健教育を効果的に行うことに大きく寄与するものと考えられた。

明海大学大学院歯学研究科環境生体免疫系歯科疫学研究群専攻仲筋 宣子に対する論文審査は、2016年1月20日、主査 安井 利一教授、副査 藤澤 政紀教授、副査 渡部 茂教授、副査 長谷川 彰彦教授の4名により実施した。論文審査は口頭試問により実施し、その結果、合格と判定した。

よって、申請者：仲筋 宣子は、博士(歯学)の学位を授与されるに値するものと判断した。